

コウノトリを復活させるために、
最も変わらなければならなかったのが

農業



力工儿

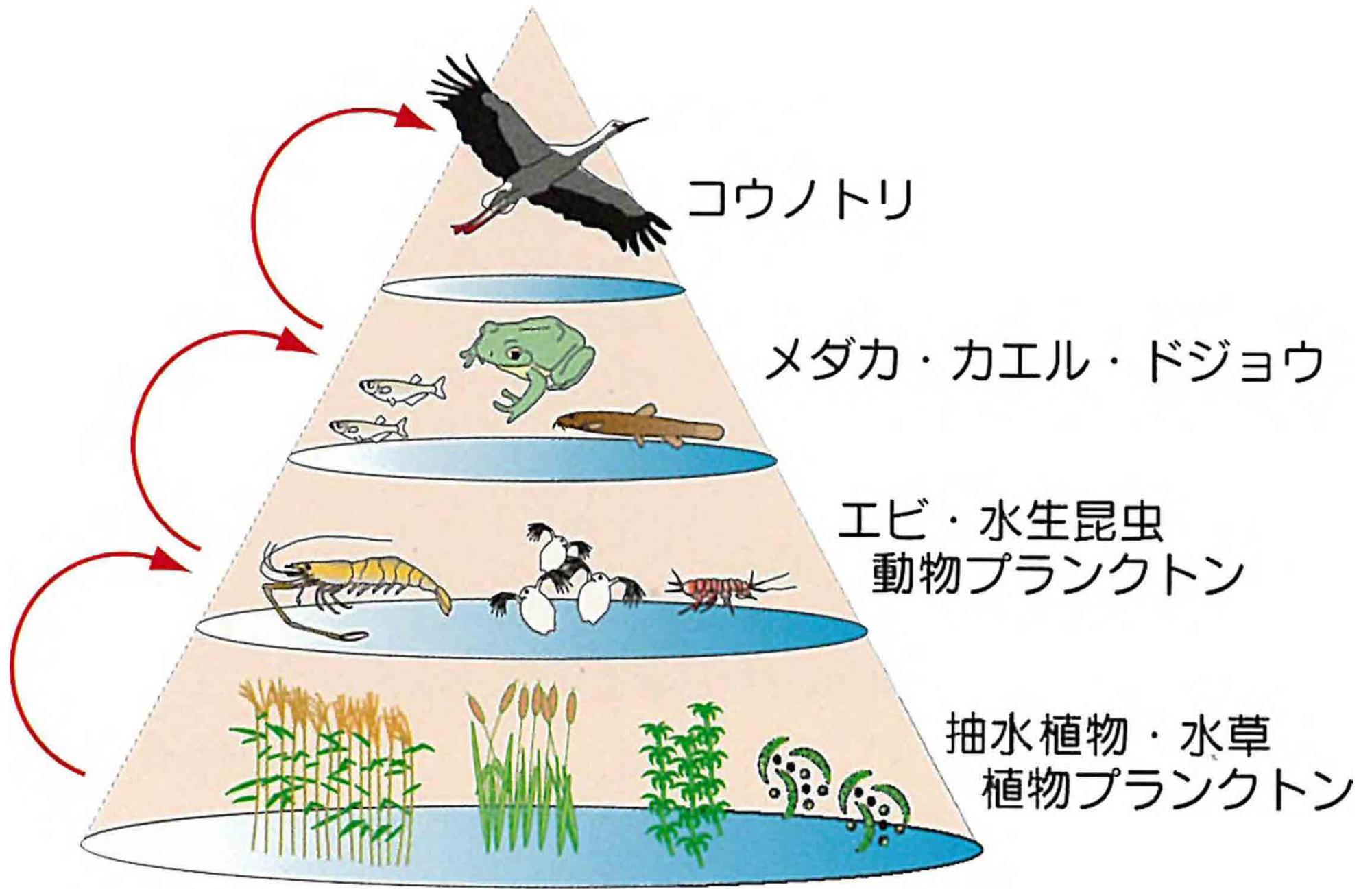


力工儿



力工儿





生息の決め手となるのは「田んぼ」の生態系

「生きものを増やす」という明確な意思を持った米作り



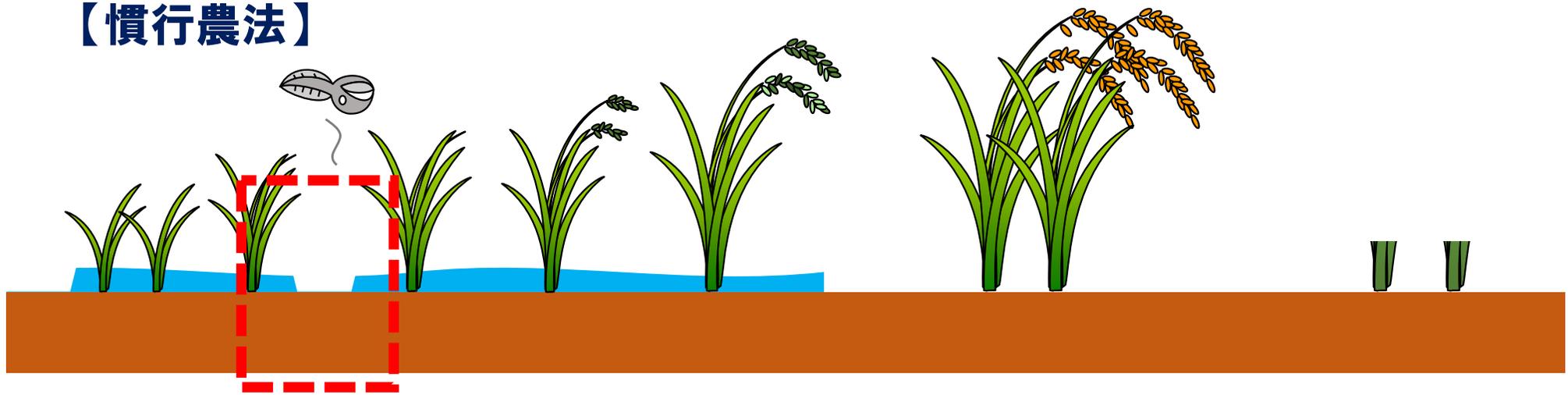
2005年、おいしいお米とたくさんの生きものを同時に育む
「コウノトリ育む農法」として体系化

「コウノトリ育む農法」の栽培要件

区分		無農薬	減農薬
苗づくり	種子消毒	お湯	
	殺虫剤	不使用	
栽培	殺虫剤	不使用	
	除草剤	不使用	75%削減
	化学肥料	不使用	
その他	あぜの除草	除草剤の使用禁止	
	水管理	中干延期 冬みず田んぼ、早期湛水	

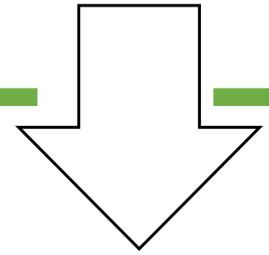
※「コウノトリ育むお米 栽培暦」より

【慣行農法】

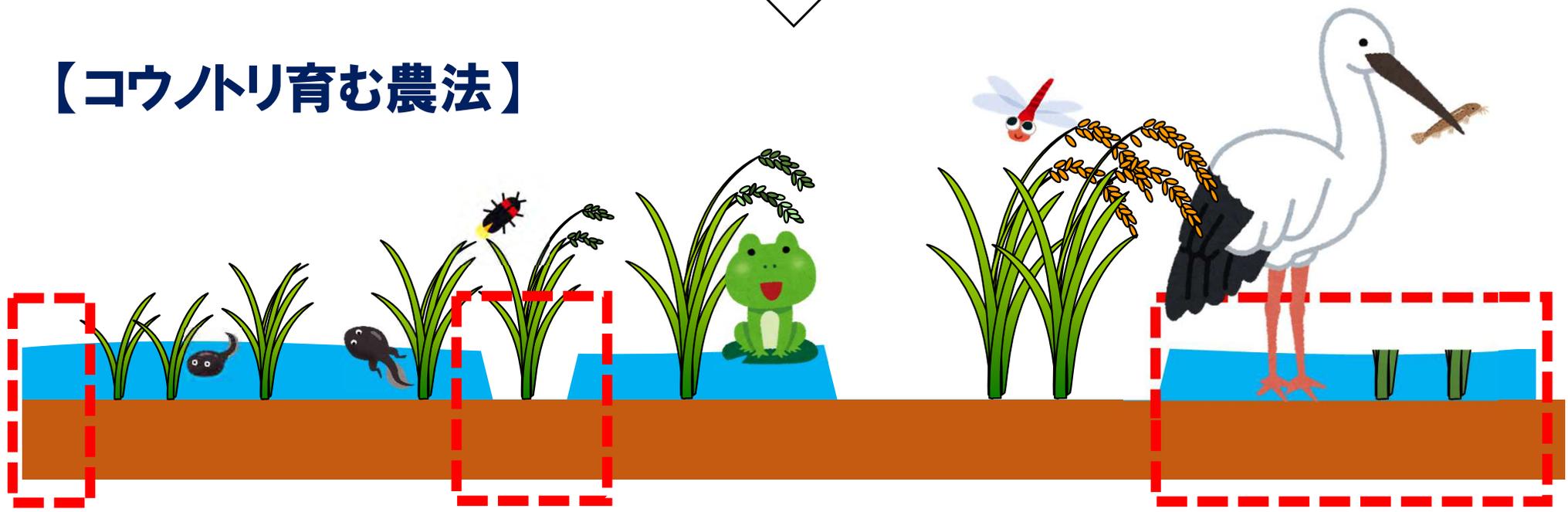


中干し

春 夏 秋 冬



【コウノトリ育む農法】



早期湛水

中干し延期

冬期湛水



冬期湛水田でアカガエルが産卵



中干し延期でオタマジャクシがカエルに



ヤゴやトンボもいっぱい

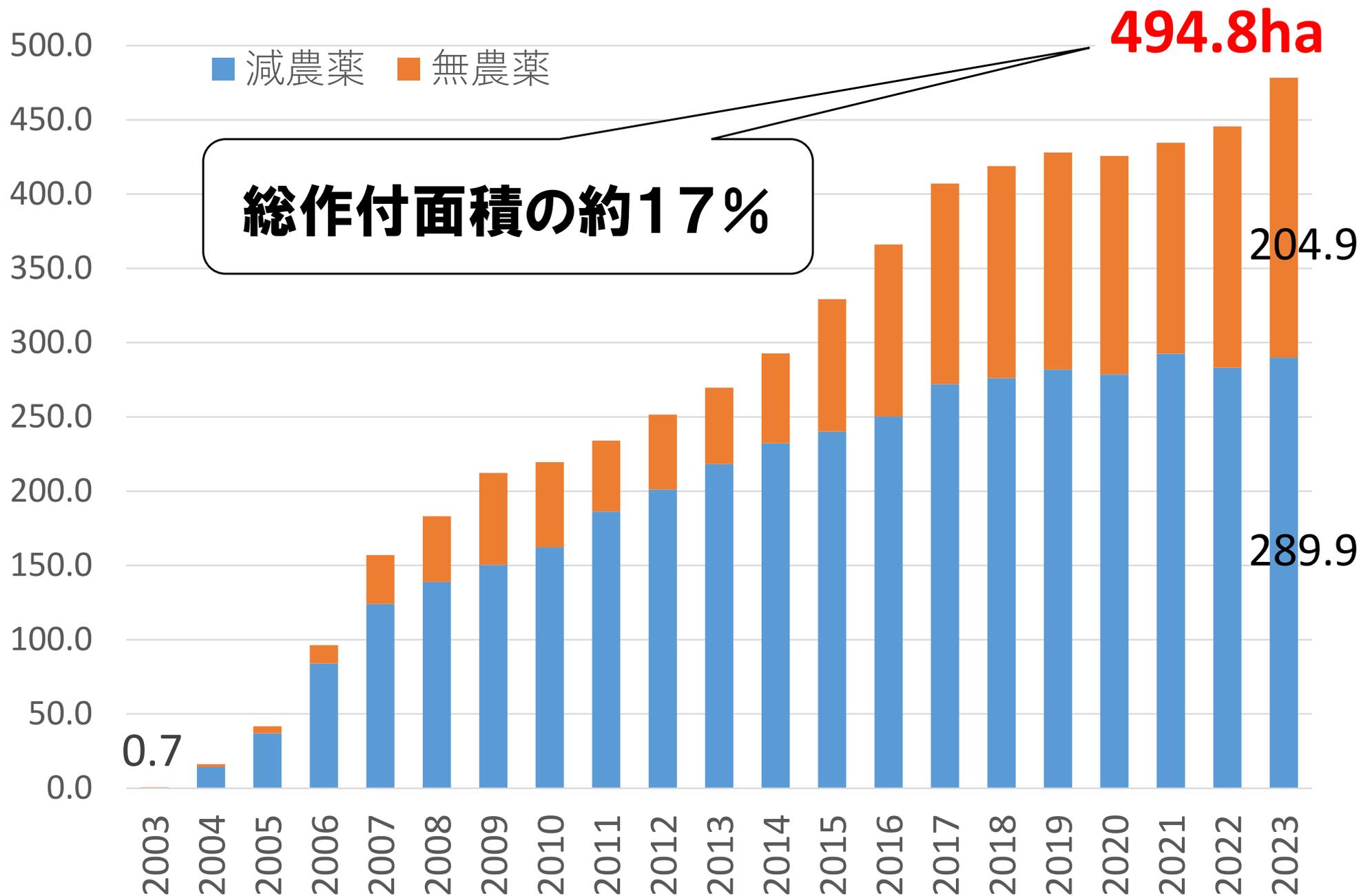


クモの巣がビッシリ

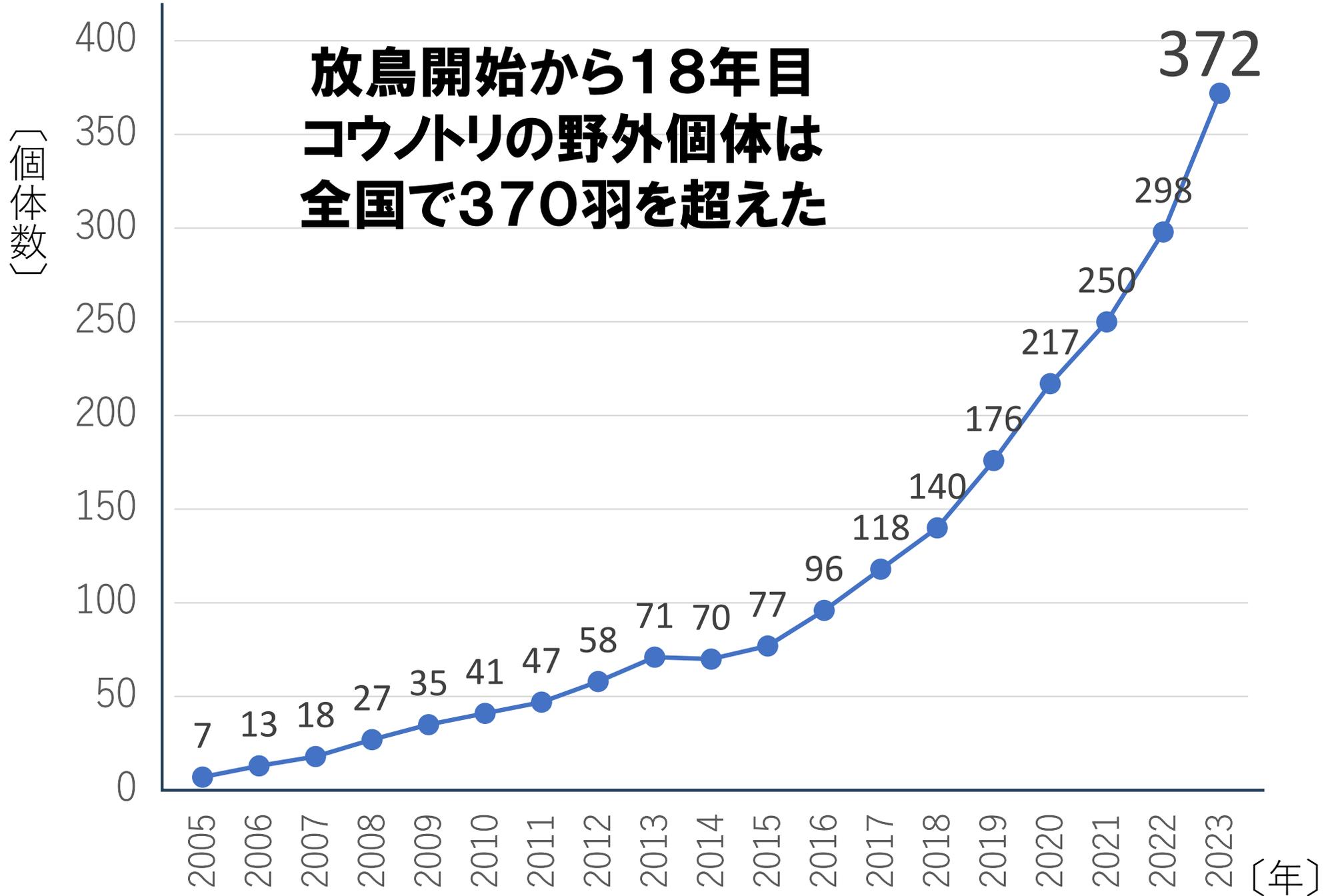


NHKスペシャル「コウノトリがよみがえる里」から

「コウノトリ育む農法」水稲作付面積の推移



**放鳥開始から18年目
コウノリの野外個体は
全国で370羽を超えた**

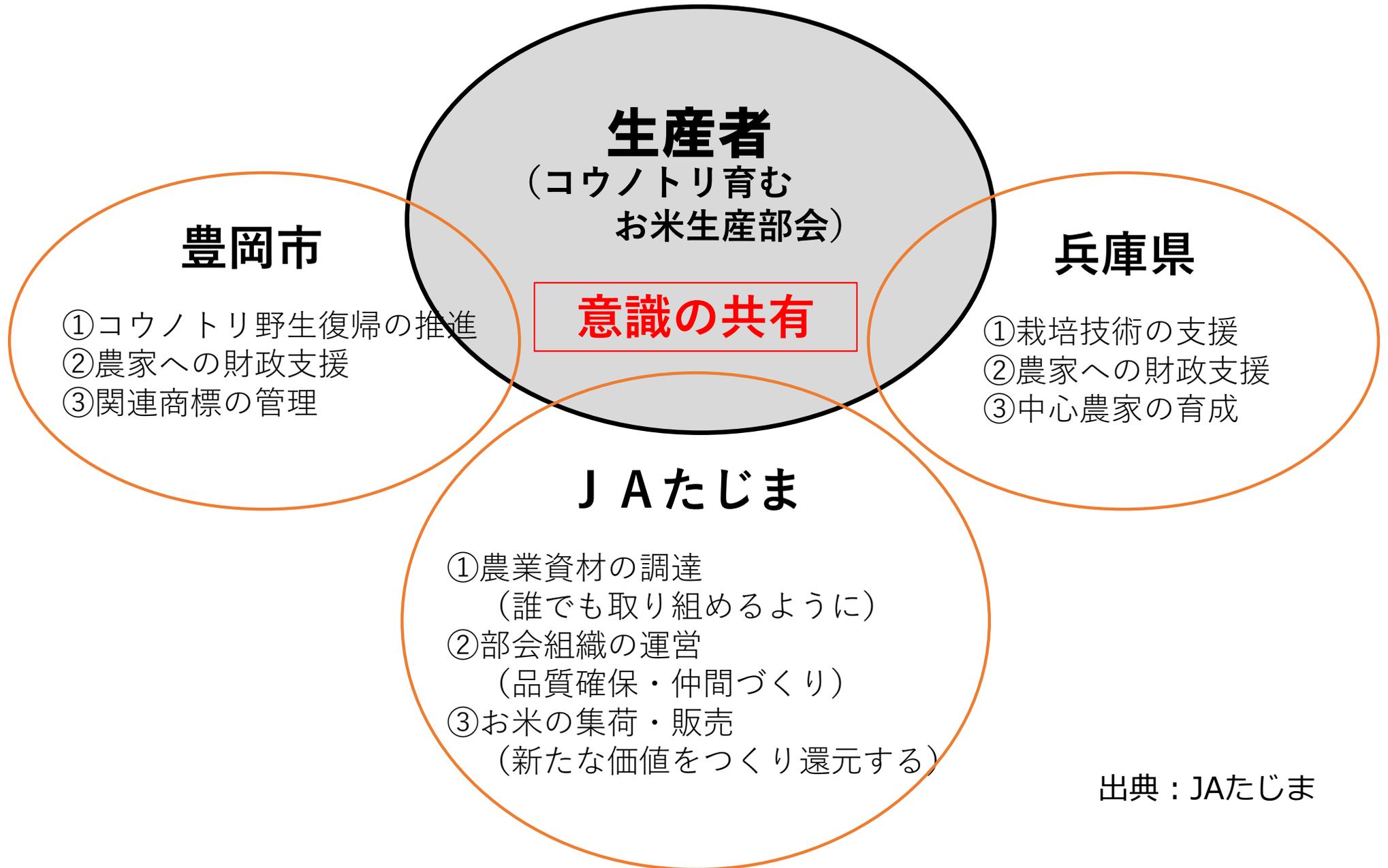


「コウノトリ育む農法」

拡大のために

- 1 推進体制**
- 2 経済性**
- 3 栽培技術**
- 4 モチベーション**

三位一体の普及・推進体制



出典：JAたじま

高値買取＋販売先の確保



主な販売先

- 生協
- スーパー（量販店）
- 百貨店
- 米穀店
- ネット販売 など

出典：JAたじま



省力化に向けた取組み



2013年

「ポット成苗＋専用除草機」を使用した栽培技術協定の締結

『みのる産業＋豊岡市＋兵庫県＋JAたじま』

2017～2019にかけて、成苗用田植機＋乗用除草機の導入支援
農家数：19件 田植機：10台 除草機：18台 導入



ポット成苗用田植機(8条)



乗用除草機



豊岡市スマート農業プロジェクト

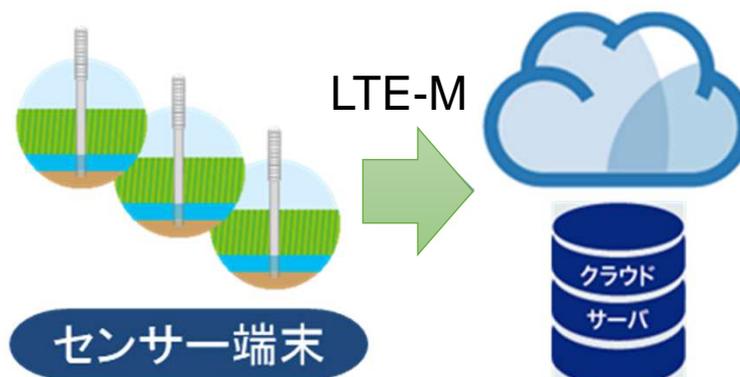
2016年9月21日
KDDI と包括協定



地域課題の解決



2018年5月31日
水田センサーによる
実証事業をスタート





スマホ・タブレットで
水位・水温・地温を
リアルタイムチェック
水管理の省力化に！

app.miharas.jp			
	長谷D7-3	水位 6.9cm	水温 20.0°C 地温 19.6°C
	長谷D13-4	水位 10.9cm	水温 19.6°C 地温 19.7°C
	長谷D14-5	水位 5.9cm	水温 19.9°C 地温 19.7°C
	長谷D15-6	水位 7.0cm	水温 19.4°C 地温 19.4°C
	長谷D16-7	水位 7.8cm	水温 19.8°C 地温 19.5°C
	長谷D17-8	水位	水温 地温

2023.4 オーガニックビレッジ宣言



豊岡市では、一度は絶滅したコウノトリを人里に帰すプロジェクトに、まちをあげて取り組んでいます。半世紀以上に及び関係者の努力により、今や野外のコウノトリは300羽を超えるまでになりました。

その取り組みの一つとして、コウノトリも住める豊かな環境は、私たちにとっても豊かな環境だと信じて、有機農業や環境創造型農業を推進し、農薬に頼らない「コウノトリ育む農法」による米づくりを進めてきました。

このまちの次代を担う子どもたちは、大空を舞うコウノトリや「農業」を通じて人と生きものとの共生を学んでいます。

この取り組みをさらに深めていくため、子どもたちが食べる学校給食用米のすべてに有機米を使用し、有機野菜も順次提供していくことで、「食」を通じた地域ぐるみでの有機農業や環境創造型農業をさらに推進することを目指し、ここに、「オーガニックビレッジ」を宣言します。



2023年4月28日

豊岡市長 関貫久仁郎



2023年4月28日オーガニックビレッジ宣言式

豊岡市長 関貫久仁郎(中央)

たじま農業協同組合代表理事組合長

太田垣哲男氏(左)

兵庫県豊岡農林水産振興事務所所長

堀川道信氏(右)